

日本発ダイナミックマップは、グローバルスタンダードを目指しています。 高精度の3次元位置情報技術は、様々な分野への利活用が期待できます。

ダイナミックマップ基盤株式会社 (DMP) の事業展開

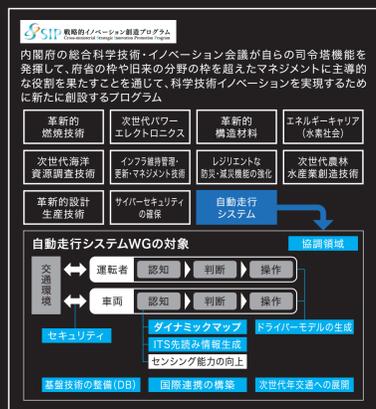


自動走行システムを支える高精度3次元地図を整備するために、高速自動車国道及び自動車専用道路、一般国道での実証実験を重ねています。日本は、海外企業とも連携しながらグローバルスタンダードを目指しています。この基盤技術は、社会インフラや物流、防災等の多分野への利活用が期待されています。

設立の背景

内閣府SIPが主導し、自動走行システムについて約2年の企画・検討が行われ、そのアウトプットとして、競争領域と協調領域が区分され実現させるための組織として企業連携により設立されました。

内閣府SIPの取り組み

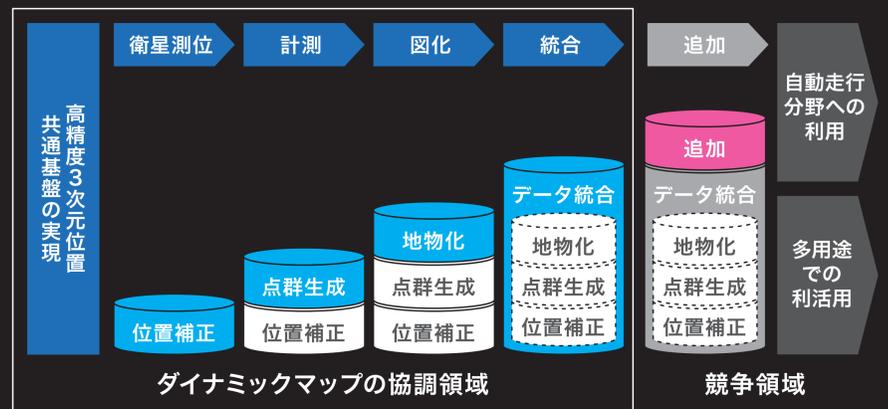


ダイナミックマップの構造と競争/協調領域の線引き



事業領域

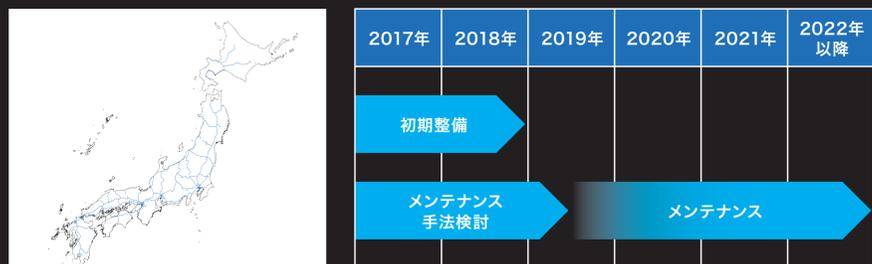
当社は自動走行システムの実現に必要なダイナミックマップの協調領域(高精度3次元位置共通基盤及び地図データ)を提供する会社として2016年6月13日に企画会社として設立。当初、2年間の企画会社としてスタートしたが、1年前倒しにより2017年6月に、事業会社へ移行しました。



事業展開

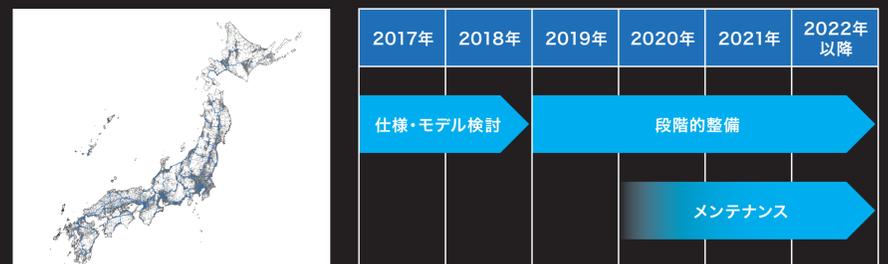
高速自動車国道及び自動車専用道路の2018年度中の整備完了

- 2018年度中に高速自動車国道及び自動車専用道路の初期整備(全国約30,000km²)を完了。※リンク長(本線、JCT、ICを含む上下線合計延長)
- 更新手法/技術等を確立し、2019年度中に初期整備データの更新開始。



一般道路整備に向けた事業展開

- 一般道路における仕様、ビジネスモデルを検討し、段階的整備へ。
- 官公庁、民間企業とも連携し、既存資源の有効活用、整備仕様の統一等を含め関係強化を推進。



日本国内で培った技術を海外へ展開

- 日本国内の高速自動車国道及び自動車専用道路計測基準が、海外において適応可能であることを実証。
- 北米において日本国内と同等の高精度3次元地図データ作成ができることを確認。
- グローバルスタンダードを目指し、海外企業とも連携を強化。



北米でのサンプル取得事例

デジタルインフラとして展開

高精度3次元位置共通基盤の多用途への展開

- 自動走行システム向けに整備した「高精度3次元位置共通基盤」を社会のデジタルインフラ基盤として、様々な分野へ利活用できる基盤整備を推進。

